個別事業(取組)評価						
事業No,	29	施策の柱への位置付け 柱④ 心の教育改革				
	若者の学びなおしと自立支援事業			担当課	生涯学習課	
事業名称				当初予算額(千円)	9,832	
争未有你				補正後予算額(千円)	10,491	
				決算額(千円)	10,100	

		当 初 計 画	年度末点検·評価
		【現状】	ア 正確に把握していたか (Yes No)
1	現 状 (課題) と その要因	◆ ニートやひきこもりがちな若者の増加 ◆ 自分の将来に夢が描けない若者の増加 ◆ 無職の若者の増加による、将来の社会不安定要素の増加	平成17年度国勢調査や平成22年度「生徒指導上の諸問題に関す る調査」結果のデータをもとに分析し、把握している。
		【要因】	イ 十分に特定していたか (Yes No)
		 中学校卒業時の進路未定者が多く、また不登校児童生徒及び高校中途退学者の割合が高いなど、学校教育でつまずく生徒が多い。 雇用環境の悪化により、若年者の就労状況が厳しくなった。 ニートや引きこもりがちな若者たちの総合相談窓口が不足している。 	本県の不登校及び高校中退者の出現率、若年無業者比率を踏まえた事業であり、要因を十分検討し特定している。
			ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes No)
2	目 標 (Outcome)	 ◆ こうち若者サポートステーションの新規登録者数は、月7人を目指す。(H22:6.9人) ◆ 高知黒潮若者サポートステーションの新規登録者数は、月8人を目指す。(H22:7.5人) ◆ 若者サポートステーションにおける進路決定率(累積)はなりませた。(関係)は、2002 	目標は達成可能で具体的なものである。 エ 目標は達成されたか (Yes No
		40%を目指す。(開所以来 35.3%) ◆ こうち若者サポートステーションにおいて、支援プログラムを実施し、利用者全員の意識等の変容に関する調査を行う。 ・ 進路決定率は65%を目指す。(H22:63.2%) ・ 進路に関する行動変容率の向上は90%を目指す。(H22:88:2%) ・ 社会性の向上は55%を目指す。(H22:51.1%) ◆ 「個人情報票」による、公立高校中途退学者(通信制除く)の情報提供率は中途退学者の15%を目指す。(H22: 8.4%) 【検証(比較)方法】 ◆ 若者サポートステーションの実績報告書により確認する。	◆ こうち若者サポートステーションの新規登録者数:9.8人/月、118人/年(目標達成率:140.5%) ◆ 高知黒潮若者サポートステーションの新規登録者数:5.1人/月、62人/年(目標達成率:68.9%) ◆ 若者サポートステーションにおける進路決定率(累積):40.9%(目標達成率:102%) ◆ こうち若者サポートステーションにおいて、支援プログラムを実施し、利用者全員の効果測定を行った。 ・ 進路決定率:45.9%(目標達成率:70.6%) ・ 進路に関する行動変容率:79.6%(目標達成率:88.4%) ・ 社会性の向上率:54.5%(目標達成率99.1%) ◆ 「個人情報票」による、公立高校中途退学者(通信制除く)の情報提供率:26.7%(情報提供件数70件、目標達成率178%)
3	実施内容 (Input・ Output)	 ◆ 若者の自立に向けた支援を行うために、高知県社会福祉協議会とNPO法人青少年自立援助センターに若者サポートステーション事業の下記内容を委託する。 【実施内容】 ・就学や就労に向けた支援・各種プログラムによるセミナー・体験活動・臨床心理士によるカウンセリング等 ◆ 若者サポートステーションへの誘導の働きかけを行う。・中途退学の報告のあった公立高校を訪問し、中途退学者に対しての、若者サポートステーションの紹介、個人情報の提供を依頼する。 ◆ 若者支援フォーラム・相談会(1回)、地区連絡会(5回)を開催する。 	オ 計画通り実施されたか (Yes No 1) ◆ 中途退学の報告のあった公立高校を訪問し、個人情報の提供及び若者サポートステーションへの誘導の働きかけを行った。(訪問回数62回) ◆ 若者支援フォーラムを開催し、参加者に対して、支援を必要とする若者や家族への理解促進と支援方法を周知し、支援に向けた意識の向上を図ることができた。(参加者数)・講演参加者数:91人・訪問支援基礎講座参加者数 8月29日:51名 30日:39名・個別相談会参加者数:3名(アンケート結果より)・若者が置かれている現状について:理解できた 97%・支援の必要性について:理解できた98%・支援を要する若者への関わりについて:できることがある93%・支援を要する若者への関わりについて:できることがある93%・ ◆ 地区連絡会を開催し、若者支援に携わる関係機関に対して、若者サポートステーションの理解を深めることができた。(参加者数)・土長南国地区 24人(H22:22人)・安芸郡市地区 21人(H22:20人)・嫡多地区 31人(H22:27人)・高吾地区 44人(H22:31人)・高知市地区 24人(H22:14人)
			 【今後の方向】

総合評価 今後の方向

目標達成度 【総合評価】

若者サポートステーションを核とした就学及び就労に向 けた支援は有効に機能している。また、中学校卒業時及び 高校中退時の進路未定者のサポートステーションへの誘 導システム「若者はばたけネット」も個人情報の取扱いの 整備により、有効に機能し始めており、学校教育から継続 した支援が進みつつある。

C「No」を選択した項目

【今後の方向】

I

- ◆「若者はばたけネット」を活用した中学校卒業時及び高校中退時の 進路未定者のサポートステーションへの誘導の強化 ・教育長去、思力を持ち、世界のであります。
- 市町村訪問及び高校訪問の強化
- ◆ 地域の状況に応じた連携の強化とモデル的な取組の推進
- ◆ 関係機関との連携強化(発見・誘導、支援の協働、リファー等) ・ 地区別連絡会
- 県連絡会
- ・関係機関主催の連絡会 等